

やっとかめ文化祭

2021 時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典。

YATTOKAME FESTIVAL

NOH KYOGEN

温故知新 ～未来へつなぐ変わらぬ願い～
 ーあかり彩る幽玄の世界ー

照明 能「菊慈童 遊舞之楽」 狂言「金津地蔵」

日 時 | 11/3 (水・祝) 14:00 (開場13:00) 場 所 | 名古屋能楽堂

入場料 | 一般3,000円 / 学生1,500円 (全自由席) (新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席定員は半数以下で実施します)

※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※一般チケットは、事業団友の会会員(前売りのみ)・障がい者手帳等をお持ちの方は1割引。(購入時に会員証、障がい者手帳等をご提示ください。障がい者の方はご本人と付き添い1人まで割引料金でお求めいただけます) ※割引の併用はできません。

チケット取扱い 9月8日(水)発売

●名古屋市文化振興事業団チケットガイド Tel 052-249-9387 (平日9:00～17:00/郵送可)

※名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日営業)でもお求めいただけます。
 (工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。)

◎オンラインチケット購入 **事業団チケット 検索**

●チケットぴあ Tel 0570-02-9999 Pコード:507-767

※一般のみ取扱い。 ※セブン-イレブン、中日新聞販売店でもお求めいただけます。 ※チケットぴあでは、手数料等が必要です。

●TEKET <https://teket.jp/1478/5749>

右記QRコードから→



主催やっとかめ文化祭実行委員会(構成団体名古屋市「文化振興室、観光推進課、歴史まちづくり推進室、文化財保護室」、(公財)名古屋市文化振興事業団、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(公財)名古屋まちづくり公社、中日新聞社、名古屋観光ブランド協会、特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク) 後援:名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部経済同友会、助成:文化庁、一般財団法人地域創造 協力:名古屋市三曲連盟、名古屋和楽協会、名古屋日本舞踊協会、(公社)能楽協会、名古屋支部、名古屋鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、名古屋ガイドウェイバス株式会社、名古屋臨海高速鉄道株式会社、名古屋市交通局、イオンリテール株式会社、会場を貸していただきました施設の皆さま 協賛:愛知学院大学、名古屋学院大学、岡谷銅機株式会社、一般財団法人民族衣装文化普及協会、名古屋空港ビルディング株式会社、公益社団法人日本観光振興協会中部支部、シー・クエンス株式会社、三精テクノロジー株式会社、株式会社竹中工務店、丸茂電機株式会社、株式会社エーアンドビー ディレクター:近藤マリコ、高橋佳介、西川千鶴



- 地下鉄鶴舞線「浅間町」駅下車 1番出口より東へ徒歩10分
- 地下鉄名城線「市役所」駅下車 7番出口より西へ徒歩12分
- 市バス「名古屋城正門前」下車すぐ(栄13号系統、栄27号系統、西巡回系統)
- なごや観光ルートバスメーグル「名古屋城」下車すぐ



【新型コロナウイルス感染拡大防止対策とご来場のお客様へのお願い】 ○発熱や咳、呼吸困難、咽頭痛、味覚障害などの症状がある方や、2週間以内に感染が拡大している国・地域への訪問歴がある方は、ご来場をお控えください。 ○マスク着用、手洗い、手指の消毒、検温にご協力ください。 発熱が確認された場合、マスク着用のない場合は入場をお断りします。 ○新型コロナウイルス感染が発生した場合に、速やかにご連絡を差し上げるため、チケットにあらかじめお名前・お電話番号をご記入ください。 事前にご記入の無い場合は会場にてお名前・お電話番号をご記入いただきます。 ○お客様同士の安全な距離の確保にご協力ください。 また、大きな声での会話はできるだけお控えください。 ○出演者への贈り物や面会はできません。 【主催者の取り組み】 ○会場は、空気触媒による抗ウイルス・抗菌コーティング施工済み ○空調システムによる常時換気 ○スタッフのマスク着用、手指の消毒、うがい等の徹底と検温

やっとかめ文化祭2021 芸どころ名古屋舞台

今もなお続く新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活や文化芸術のあり方に大きな変化をもたらしましたが、変わらぬ人の願い「平穏」「安全」「共生」の大切さを再認識させられる機会でもありました。今年のやっとかめ文化祭 芸どころ名古屋舞台は、この地域に伝承される芸能に現代的な創造性を加え、令和の世に生きる私たちの想いを、「温故知新」で今様に表現します。

地蔵をめくり滑稽なやりとりが繰り広げられる狂言「金津地蔵」の上演後は、人々の長寿を祝う能「菊慈童 遊舞之楽」に照明効果を加えて上演します。あかりに彩られた幽玄の世界をお楽しみください。

14:00 開演

狂言 「金津地蔵」

シテ(親) | 野村又三郎
アド(田舎者) | 野村信朗
アド(在所の者) | 藤波 徹
同 | 伊藤 泰
子方(金法師) | 浅井涼多朗

後見 | 松田高義
| 伴野俊彦

越前の国(現在の福井県)金津の里の住人が共同で持仏堂を建てた。里の代表の男(田舎者)が、ご本尊を求めて都に上り「仏を買いたい、仏師はいないか」と大声をあげていると、近寄ってきたのは生活に困窮している都の男。彼は、自分は真の仏師・真仏師だと田舎者をだまし、偽物の地蔵を売りつけてしまう。そうとは知らない田舎者は、地蔵を金津に持ち帰って持仏堂に安置し、里人を集めて供物を手向けるが…。

都の男は普通ではありえない手口で地蔵を売ることになるが、それに輪を掛けたように普通ではありえない形でだまされる人々の姿。両者をめぐって生まれる狂言ならではの可笑しい展開にご注目ください。



©杉浦賢次

照明効果を加えて上演します

照明 能 「菊慈童 遊舞之楽」

シテ(慈童) | 久田三津子
ワキ(勅使) | 橋本 寧
ワキツレ(従臣) | 梶元正樹

笛 | 鹿取希世 地謡 | 角 幸二郎
小鼓 | 船戸昭弘 | 松山幸親
大鼓 | 河村裕一郎 | 本田 勲
太鼓 | 鬼頭義命 | 吉沢 旭
| 伊藤裕貴

後見 | 久田勲 鶴
| 祖父江修一

いつの世でも人は健康と長寿を願う。観世流の能「菊慈童」(他流では「枕慈童」)には、永遠の若さを手に入れた美少年・慈童が登場する。

古代中国、魏の文帝の時代に、酈縣山の麓に薬の水が湧く。勅使がその霊水の源泉を訪ねると、菊の花咲く山中に慈童が独り寂しく暮らしていた。慈童は七百年前の周の時代の穆王に仕えていたというが、不思議なことにその姿は今なお少年のままである。かつて慈童は王の枕を跨いだ罪で流刑となったが、それを憐れんだ王は枕に経文を書いて慈童への形見とした。山奥に流された慈童がその枕の経文を菊の葉に書くと、経文の功德が顕れて菊の葉から滴る露は不老不死の薬の水となった。

慈童が菊の葉の露を飲んで若さを保ったように、その露は谷川の薬の水となって人々に長寿をもたらす。慈童が祝福の舞を舞っておめでたい時代の到来が告げられる祝言の曲。



提供:公益財団法人 能姫町財団

イヤホンガイド

日本語 | 三苫佳子(能楽研究家・愛知産業大学短期大学非常勤講師) / 英語 | 奥田小夜子(能楽イヤホンガイド名古屋)

※演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸しします。(日本語/英語)

※やむを得ず出演者等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

狂言及び能解説:三苫佳子(能楽研究家・愛知産業大学短期大学非常勤講師)